



臨床糖尿病支援ネットワーク MANO a MANO



“mano a mano” とはスペイン語で“手から手へ”という意味です

糖尿病診療に Evidence-based Medicineがもたらしたもの

【当法人評議員】
東京医科大学八王子医療センター
松下 隆哉 [医師]

日本糖尿病学会では糖尿病診療ガイドラインが2004年から発行されているが2016年に大きな改訂があったのをご存知でしょうか？ Clinical Question(CQ)-Question(Q)方式を採用し、ステートメントに推奨グレードを付記しており、引用文献にはエビデンスレベルも記載されている。さらに、CQについてはシステマティック・レビューを行い、文献にはエビデンスレベルを設定し、策定委員の投票により推奨グレードを決定しています。糖尿病診療に関するCQに答えられるだけのRandomized Controlled study (RCT)や観察研究が多くないことや、日本人のRCTが少ない、CQや多彩な背景をもつ糖尿病患者にRCTをエビデンスとして適応するべきかが疑問なことがコンセンサス・ステートメントを重視している理由として考えられます。

さて、EBMとは何でしょうか？「EBMとは個々の患者のケアに関する医療者の意思決定の過程に、現在得られる最良の根拠を、良心的、明示的、かつ思慮深く用いること」とEBMを体系化したSackettは述べています(BMJ 1996;312: 71)。EBMとは、目の前の患者の問題点に関して、入手可能なエビデンスに基づき、更に患者の価値観や期待を考慮した上で、臨床判断を下して医師が、その専門技術をもって理にかなった医療を行うことです。RCTやシステマティック・レビューのメタ解析の有意差が見られたことを患者に適応することではありません。逆に「RCTで有意差が示されないから有効でない」も間違いです。エビデンスは臨床判断のためのツールの一つであり、医療の不確実性が改善するものではないのです。

糖尿病のエビデンスと言えば、1990年代から始めています。1型糖尿病を対象としたDCCTや2型糖尿病に対するUKPDSで血糖コントロールの糖尿病合併症への有効性が明らかにされました。UKPDSやSteno-2では血糖コントロール以外にも脂質・血圧管理の重要性が明らかとなり、2000年代の大血管合併症をもつ糖尿病患者への厳格な血糖コントロールを行ったACCORD、ADVANCE、VADTでは効果が乏しく、UKPDSの延長研究では早期の血糖コントロールが大血管合併症への有効性が明らかにされ、糖尿病は早期からの厳格な血糖コントロールが重要と認知されるようになりました。2010年代からはアメリカFDAからの要請で、糖尿病治療薬の悪影響を検討するようになり一部の薬剤で心血管イベントに有用性が示され始めています。

海外の臨床試験ではアウトカムを心血管イベントに置きますが、日本での糖尿病での死因はがんや感染症が多くなり、一般人口と死因が似てきています。我々の患者さんのアウトカムは、心血管イベントだけではないのではないかと診療をしながら思うことがしばしばあります。糖尿病患者が高齢化していますが、一方で若年の肥満を伴う糖尿病や未診断例や中断例の臨床試験参加者とは全く違う患者さん達に対して医療だけで、彼らの予後の改善は難しいのではないかと感じています。

読んで
単位を
獲得しよう

西東京糖尿病療養指導士(LCDE)は、更新のために5年間に於いて50単位を取得する必要があります。本法人会員は、会報「MANO a MANO」の本問題及び解答を読解された事を自己研修と見做し、**1年につき2単位**(5年間で10単位)を獲得できます。毎月、自分の知識を見直し、日々の療養指導にお役立てください。
(「問題」は、過去のLCDE認定試験に出題されたものより選出、一部改変しております。)

問題 旅行に際しての療養指導で正しいのはどれか、1つ選べ。(答えは3ページにあります。)

1. インスリンの予備は液体のため、貨物室に預ける荷物としてトランクに入れましょう
2. インスリンや薬は、1つのバックにまとめておきましょう
3. インスリンや薬は、必要以上の量を持って行かないようにしましょう
4. 数日間の旅行なら、未使用のインスリンは常温でもいでしょう
5. 時差で食事の時間がずれても、日本時間に合わせてインスリン注射をしましょう



報告

臨床糖尿病支援ネットワーク 第61回例会

日時:平成29年6月3日(土)
場所:ルミエール府中

【本法人会員】 第61回例会当番幹事 戸塚 康男 【医師】



川崎先生



熊倉先生

「超高齢時代のインスリン治療」をテーマとした第61回例会では、日本老年医学会による『高齢者の安全な薬物療法ガイドライン2015』なども出ている状況下で、どのようにインスリン療法に取り組むかという菅野一男先生の講演で始まった。これまで以上に介護の人たちとの協力が必要であることが論じられた。老年症候群を考慮し、“間違い”の起きやすいことを前提にした治療プログラム・指導が重要であり、訪問看護ステーションとの具体的な協力事例も紹介された。多摩総合医療センターの川崎元樹先生からは、血糖変動→認知症→低血糖の悪循環の問題から、高血糖スパイクや低血糖を避ける治療目標設定が重要で、

SMBGが必ずしも十分に活用されていない状況が指摘された。さらにCGMや最新のFGMも紹介された。熊倉医院の熊倉淳先生は、患者さんを支えるヘルパー・ケアマネジャーとの連携で患者さん中心の医療を実現するために、医療者や福祉関係者がどうすれば良いか論じられた。

パネルディスカッションでは、在宅高齢者インスリン管理について議論された。実際にインスリン療法を行っている多数の患者さんの臨床現場での状況、外来で認知症をみつける努力の重要性が報告され、施設入所した高齢者がインスリン療法を受け続けられるための医療制度理解の重要性が指摘された。

内容の濃い3時間半で、糖尿病を持つ患者さんの治療、ケアに携わる人々の支援につながるものであった。

なお2017年6月に、日本老年医学会・日本糖尿病学会から『高齢者糖尿病診療ガイドライン2017』が出版されたのでご参照されたい。



- 😊 大変有意義でした。低血糖予防の牛乳飲用、大変興味深いです。
- 😊 糖尿病専門医のいない病院なのですぐ実践は難しい内容もありましたが、FGMなどとても興味深い内容でした。
- 😊 認知+高齢のインスリン治療、施設の話、おもしろかったです。
- 😊 いつも最新で話題の内容をテーマに企画していただき、ありがとうございます。

😊 リブレの装置など、まったく知らなかったのが驚きでした。また高齢者の場合(特に認知症の方には)最低下限値が設定されているなども以前の考え方の違いを知り、とても参考になりました。

😊 情報共有する事が大切だと感じました。また、高齢者の状況、フレイルの状態を把握する事は大事であるとも思いました。

😊 外来で働いていますが、やはり、高齢の患者様が多い現状があります。今回の講義はまさにドンピシャですごく勉強になりました。SMBGについてはもっとお話を聞きたいと思いました。



第77回米国糖尿病学会(ADA)

平成29年6月9日(金)～13日(火)

アメリカ合衆国・サンディエゴ

【本法人理事】
かんの内科

菅野 一男 [医師]

6月9日サンディエゴ直行便に乗ったところ私の席に藤井仁美先生がちゃっかりと座っている。私の勘違いかと思ったが、結局藤井先生は一つ前の席だと判明し一件落着。同じ飛行機にはちょっと見渡しただけでも知っている先生が何人か周りにいるのは、例年通り。

今回一番の目玉はSGLT2阻害カナグリフロジンを使用した心血管イベント抑制効果(CANVAS試験)と腎機能に対する効果(CANVAS-R試験)。2015年に発表されたEMPA-REG試験で、SGLT2阻害薬エンパグリフロジンを投与した高リスク患者において、全死亡と心血管系イベントがともに大幅に減少していることが証明されて以来、その効果がクラス効果かどうかについて議論されてきたが、カナグリフロジンでも心血管イベントの抑制効果が示され、さらに腎障害進展抑制効果も確認され、SGLT2阻害薬全体が大血管障害と腎障害の予防効果があると考えてよさそう。

2型糖尿病についても1つの主要な無作為化試験が、DEVOTE試験。長時間作用型インスリンのdegludec(トレシーバ)とインスリンlarginine(ランタス)で、高リスク患者における心血管安全性を比較したが、有意差はなかった。

しかし重症低血糖はトレシーバ群が40～50%程度少なかった。2014年のADA学会長だったElizabeth Seaquist先生は、次はトレシーバとU300(ランタスXR)の勝負だとコメントしていた。

今回、CVOT(CardioVascular Outcome Trial)という言葉をよく耳にした。今後日本でも普通に使われるようになるだろう。

学会長講演も毎年の楽しみだが、Become a diabetes advocate, go beyond your current role. Communicate on the importance of science. Now science is under attack, some government officials...と現政権に辛辣な言葉を発した時、会場は拍手喝采だった。



藤井先生と加藤先生、たまたま通りかかった秋田大学の山田教授と一緒に。

研究会等のセミナー・イベント情報

◆ 直接事業 ◆ 間接事業 □ その他

第20回記念特別講演会 南多摩糖尿病教育研究会

申込必要

開催日：平成29年9月26日(火) 19:10～21:10

場所：パルテノン多摩 4F 第一会議室(京王線「多摩センター駅」下車 徒歩5分)

参加費：500円 申込：FAX: 042-400-5952 (9/19締切)

☆西東京糖尿病療養指導士認定更新のための研修単位：3単位

☆日本糖尿病療養指導士認定更新のための研修単位<第2群>：0.5単位申請中

詳細資料の
同封あり

読んで
単位を
獲得しよう

答え 4 下記の解説をよく読みましょう。

(問題は1ページにあります。)

解説

1. 飛行機の荷物室は、温度管理・気圧管理がインスリンの保管に適していません。液体が凍ったり、機器が故障する可能性があります。手荷物として持ち運びましょう。
2. 海外旅行の際には、荷物が盗難などで紛失する可能性があります。複数の手荷物、ハンドバックなどに分けてリスクは分散させておきましょう。
3. 旅行中にインスリンや薬剤が紛失したり、予定通りに帰宅できない可能性があります。余裕をもって持っていくましょう。
4. ホテルの冷蔵庫に忘れたり、凍ってしまったりするよりも、カバンに入れておく方が安心です。
5. 追加分泌のためのインスリンは、食事時間に合わせなければなりません。現地の食事の時間に合わせて投与します。

研究会等のセミナー・イベント情報

☒ 直接事業
 ☒ 間接事業
 ☐ その他

◆ 第18回 西東京糖尿病療養指導士養成講座

申込必要

期 間：平成29年9月6日（水）第1講開講 以降12月19日（火）まで計14回実施
 場 所：立川市女性総合センターアイム 1階ホール（JR「立川駅」北口徒歩7分）
 受講料：会員 14,000円 一般（非会員） 20,000円（全14回講義分として）
 申 込：[本法人ホームページ \[https://www.cad-net.jp/\]](https://www.cad-net.jp/) より

※詳細は、本法人ホームページより「第18回西東京糖尿病療養指導士養成講座のご案内」をご覧ください。

【聴講制度のご案内】 聴講制度によりLCDE認定者も受講可能（※但し、未認定者優先）です。養成講座を受講されると40単位を上限とし、1講義出席につき4単位取得できます。8/29（火）より受付を開始します。会員マイページ内の聴講制度に関する掲示より、Web決済にて受講料をお支払いください。

☆西東京糖尿病療養指導士認定更新のための研修単位：1講義につき4単位

□ 第18回 糖尿病予防講演会

申込不要

テーマ：『もっと気楽に糖尿病ライフ』

開催日：平成29年9月30日（土）14:00～17:25

場 所：ルミエール府中 コンベンションホール飛鳥（京王線「府中駅」下車 徒歩6分）

☆西東京糖尿病療養指導士認定更新のための研修単位：2単位

☆日本糖尿病療養指導士認定更新のための研修単位＜第2群＞：1単位申請中

詳細資料の
同封あり

◆ 第22回 糖尿病療養担当者のためのセミナー

申込必要

開催日：平成29年10月1日（日）9:50～18:00

場 所：東京経済大学 国分寺キャンパス2号館（JR中央線「国分寺駅」南口下車 徒歩12分）

参加費：4,000円 申 込：FAX:03-5574-9970（9/19締切）

☆西東京糖尿病療養指導士認定更新のための研修単位：5単位

☆日本糖尿病療養指導士認定更新のための研修単位＜第2群＞：2単位申請中

詳細資料の
同封あり

◆ 第31回 多摩糖尿病チーム医療研究会

申込必要

開催日：平成29年10月11日（水）19:00～21:00

場 所：ルネこだいら レセプションホール B1（西武新宿線「小平駅」南口下車 徒歩3分）

参加費：500円 申 込：FAX:042-527-2360（9/29締切）

☆西東京糖尿病療養指導士認定更新のための研修単位：3単位

◆ 第33回 武蔵野糖尿病研究会

申込必要

開催日：平成29年10月14日（日）14:50～16:30

場 所：国立市商業協同組合 さくらホール（JR中央線「国立駅」南口下車 徒歩3分）

参加費：500円 申 込：FAX:042-400-5952（10/6締切）

☆西東京糖尿病療養指導士認定更新のための研修単位：3単位

☆日本糖尿病療養指導士認定更新のための研修単位＜第2群＞：0.5単位申請中

詳細資料の
同封あり

◆ 臨床糖尿病支援ネットワーク 第62回例会

申込不要

テーマ：『その血糖値どこまで信用できる！？～血糖測定の現状と問題点～』

開催日：平成29年11月18日（土）15:30～18:50

場 所：国分寺市立いずみホール（JR「西国分寺駅」下車 徒歩2分）

参加費：本法人会員 無料 / 一般 1,500円

☆西東京糖尿病療養指導士認定更新のための研修単位：7単位

☆日本糖尿病療養指導士認定更新のための研修単位＜第2群＞：1単位申請中

☆日糖協療養指導医取得のための講習会：申請中

詳細資料の
同封あり

発行元

一般社団法人 臨床糖尿病支援ネットワーク事務局
 〒185-0012
 国分寺市本町2-23-5 ラフィネ込山No.3-802
 TEL:042(322)7468 FAX:042(322)7478
<https://www.cad-net.jp/>
 Email:w_tokyo_dm_net@crest.ocn.ne.jp

編集後記



今年の夏は当初猛烈な暑さで熱中症が懸念されましたが、梅雨が明けてから間もなく一転して曇りや雨の日が多くなりました。残暑はどうなるでしょうか。さて、秋はまた学会や研究会が目白押しです。皆さんにとって実りの多き秋となりますことを祈念しております。

（広報委員 西田 賢司）